

ブレーキ

2021. 8. 24

学校には、いろいろな決まりがある。中学校の決まりは、一般的には校則と呼ばれているかもしれない。野田中学校では生徒心得となっている。この生徒心得自体は、さほどの量ではない。意外とあっさりしている。これがいいようでよくない。あっさりしている分、基準がわかりにくい。基準を明確にし、わかりやすくしていった結果、「こまごまとした決まりが多すぎる」となる。

小学校の決まりで、よく聞くものは「廊下を走らない」だろうか。なぜ、走ってはいけないのか。小学校の先生方は、子どもたちに、どんな説明をしているだろうか。きっと「走ると危ないから」ではなかろうか。実際に、廊下を走って人にぶつかり、けがをする子どもが存在する。「廊下を走らない」という決まりは、走るという行為そのものを禁止するものではない。学校の廊下という場所に限定して走ることを禁じているのである。

ここで、「走るの元気があってよい」とか、「子どもなんだから、廊下を走ることくらい大目に見てもよい」という考えで指導したとする。さて、どうなるだろうか。決まりがどんどん緩く感じられるようになり、そこで生活する集団は、勝手に走り回ったり、他の人の立場になって考えることのできない集団になってしまうかもしれない。

「廊下を走らない」ことは、直接のねらいであって、実は、その裏に「自分の行動にブレーキをかけ、他の人のことも考えることのできる人間を育てる」という、大きなねらいが秘められているように思う。

自分の行動にブレーキをかけることができない若者がいる。このような若者は、自分さえよければ、少しのわがままくらいは大目に見てもらえると思いつながりながら成長してきたのかもしれない。昔から「今の若者は～」と言われてきた。若者とは、そういう存在であるという考えもあるかもしれない。だが、国の行く末を、明るい社会づくりを託す大切な存在である。

自分の行動にブレーキをかけることができない人間は、どこかできっと大きな困難に出会うことになる。その困難は、小さな決まりをいい加減にしてきたツケであると言っても過言ではない。実は、学校というところは、自分の行動にブレーキをかける力を育てる修業の場でもある。「廊下を走らない」「時間を守る」「お金の貸し借り禁止」「いじめや意地悪をしない」「当番活動にまじめに取り組む」などが挙げられる。

中学校というところは、窮屈に感じられることもあるだろう。「もっと自由にしてくれればいいのに」と思うこともあるだろう。だが、修業の場なのである。修業は、そんなに楽しくはないだろう。心にブレーキをかけることができる人間を育てられるかどうかは、非常に重要なことである。このことができるのが中学校なのである。中学校で、それができなければ、そのまま社会に出て行ってしまふことになる可能性がある。それは避けたい。本人のためにも社会のためにもならない。

中学校の先生方は、いわば悪者となってまでも、心にブレーキをかけられる生徒を育てようとしている。悪者たる者、決して迎合してはいけない。